

様式4) (Form4)

学 位 論 文 の 内 容 の 要 旨

Dissertation Abstract

アマルトブシン トメンジャルガル

AMARTUVSHIN TUMENJARGAL 印

(学位論文のタイトル)

Title Uterine Artery Embolization Combined with Dilatation and Curettage for the Treatment of  
f  
Cesarean Scar Pregnancy: Efficacy and Future Fertility

(帝王切開癒痕部妊娠(CSP)に対し、子宮内容除去術(D&C)と子宮動脈塞栓術(UAE)を併用した治療：  
有用性と妊孕性についての検討)

(「論文目録(様式3)」の主論文の部分を記載する。英文の場合は和訳をつける。)

For English paper, Japanese title is necessary.

(学位論文の要旨) 2,000字程度、A4判 (approx. 800 Words in English /A4 size)

英文

緒言：

帝王切開癒痕部妊娠(CSP)はまれな病態であるが、制御不能な出血や子宮摘出のリスクがある。CSPは致命的であり、大量出血、ショック状態、子宮破裂などの重篤な合併症が引き起こされると、子宮摘出を余儀なくされ、妊孕性を失う可能性がある。このためCSPの状態をいち早く治療する必要がある。CSPの治療に関しては、近年、妊孕性を担保し、重篤な合併症を回避するために様々な方法が報告されているが、定まったガイドラインなどは確立されていない。子宮内容除去術(D&C)のみの治療は、出血のリスクが高く推奨されていない。しかし、D&Cと子宮動脈塞栓術(UAE)を併用した治療が近年は報告されつつあり、妊孕性の担保や重篤な合併症の予防に有用ではないかと考えられている。

目的：

帝王切開癒痕部妊娠(CSP)に対しD&CとUAEを併用した治療の安全性と有効性また治療後の妊孕性について評価することである。加えて、CSPに対する過去の報告例についても文献を検索し、我々の結果と比較、考察した。

対象と方法：

2006年から2017年に当院でCSPに対して治療が行われた33人について検討した。CSPの診断は、帝王切開の既往、血清β-hCGの上昇、経膈的エコー検査によって判断した。33人については血清β-hCGの推移、出血量、治療による合併症、月経再開の有無、入院期間について検討した。妊孕性については、CSPの治療後に妊娠を希望した患者の妊娠成立の有無について検討した。また、CSPの治療後に妊娠を希望し

た患者については妊娠群（Group I）と非妊娠群（Group II）にわけて、妊娠成立の因子について以下の項目を検討した。患者背景、年齢、過去の妊娠回数、過去の帝王切開回数、最終帝王切開日から治療日までの期間、胎齡、胎嚢の大きさ、出血量、血清 $\beta$ -hCG、臨床所見。

文献的考察方法：

PubMedとGoogle Scholarを用い 2016年までに報告されている文献のなかで“cesarean scar pregnancy, “reproductive”, “pregnancy outcomes”を検索キーワードして抽出した。なかでも一般的な治療方法であるメトトレキサート（MTX）療法、D&C、子宮鏡/腹腔鏡処置、UAEで治療している報告で、20例以上の患者を治療している文献を対象とした。

結果：

33人のCSP患者がD&CとUAEを併用し治療された。血清 $\beta$ -hCGの正常化要日数は $35.5 \pm 14.9$ （13-79）日、出血量は $28.2 \pm 17.1$ （3-65）mL、入院期間は $6.5 \pm 2.5$ （2-15）日であった。4/33（12.1%）人は治療10日後に血清 $\beta$ -hCGの十分な低下がみられず追加の処置（経口MTX50mg、5日間）を要した。追加の処置を要した患者の血清 $\beta$ -hCGの正常化要日数は $58.3 \pm 21.3$  days（34-79）であった。処置後に2人の患者が発熱と軽微な発熱があったが経過観察のみで軽快した。重篤な合併症が起きた患者は見られなかった。すべての患者で子宮は温存され、妊娠を希望した7/16（43.8%）人が妊娠し、帝王切開によって出産した。妊娠群（Group I）と非妊娠群（Group II）では、血清 $\beta$ -hCG正常化要日数（ $p < .02$ ）と胎嚢（ $p < .01$ ）の大きさで有意差を認めた。

文献的考察結果：

5件の文献が適格し、妊孕性についても検討を行った。過去の報告では、CSP治療の成功率は27-100%で、合併症率には幅があり0-90.1%であった。妊娠を希望した73人の患者についての治療後の妊孕性については5-88%であり、41%の患者が治療後8.3ヶ月後に妊娠した。正常出生率は43-100%（86%）であった

結論

D&CとUAEを併用したCSPへの治療は有効であり安全であると考えられた。この治療方法は侵襲が少なく妊孕性も担保でき得る治療方法の一つと考えられた。